世界統計の日フォーラム 2025

公的統計における信頼とイノベーションで変化をもたらす

急成長するデータエコシステムにおいて、質の高いデータをすべての人に

United Nations | Department of Economic and Social Affairs
Statistics

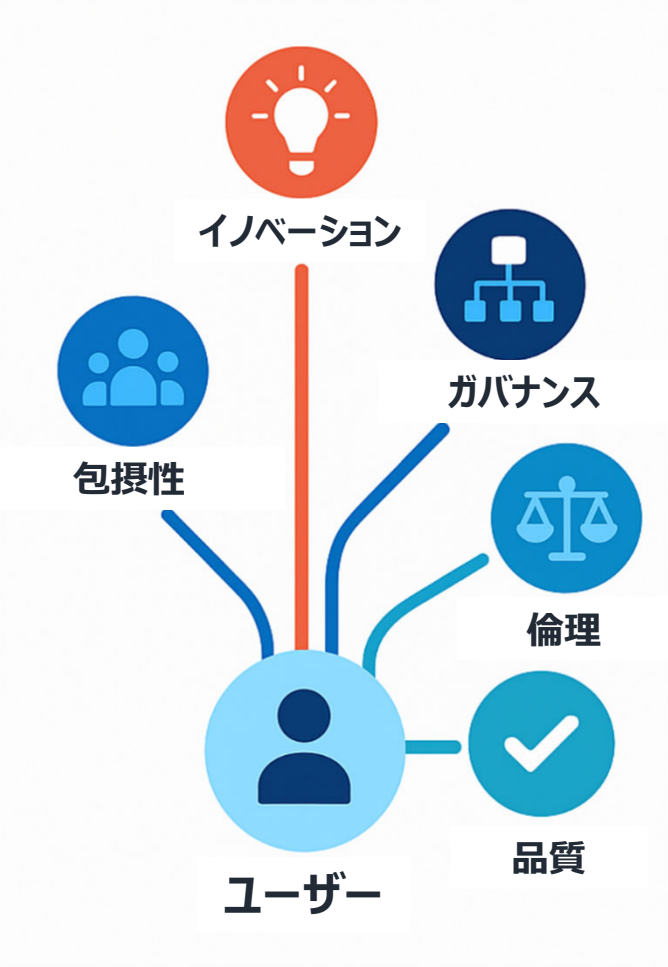
2025年12月4日

浅草ビューホテル | 東京都台東区

あらゆる場所にあるデータから信頼できる公的統計へ

- **データが溢れる世界で、公的統計は原データを実用的な知識へ変換している**
- 公的統計の基本原則に従って作成
- 公平性、客観性並びに科学的方法及び倫理基準の遵守を確保
- 政府、企業、市民社会、一般国民のすべてのユーザーを満たすことで公共の利益に貢献
- 国境を越え、時を経ても、統計分野において信頼性、比較可能性、正確性を担保
- エビデンスに基づく政策と持続可能な開発目標(SDGs)の進捗モニタリングの基盤として公共の信頼を強化

ユーザーを中心とした統計の設計



- **公的統計は多様なユーザーコミュニティに貢献すべき公共財**
- 主なユーザーグループには、政府、議会、地方自治体、民間セクター、メディア、市民社会、学術界、一般国民が含まれる。
- 品質と関連性はユーザーのニーズによって定義されており、統計はこれらの異なるコミュニティに適合している必要がある。
- したがって、現代の統計システムはユーザー志向であり、ユーザーとの構造的な対話と継続的な関与に基づいて構築されている。
- このプレゼンテーションでは、ユーザーを中心に置きつつ、その周囲に包摂性、ガバナンス、品質、イノベーション、倫理の5つのレバーを配置している。
- これらのレバーのどれか１つでも弱ければ、公的統計に対する信頼と効果的な活用が危うくなるため、それぞれを順次強化する必要がある。

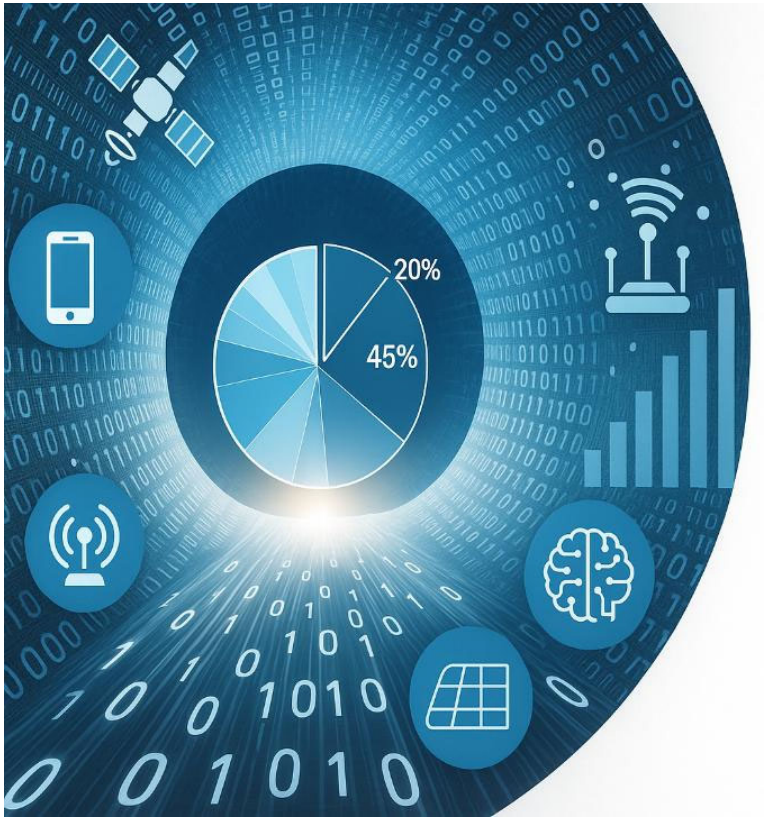
倫理と高潔性：公的統計の基本原則

- **公的統計の信頼性を支える倫理的かつ専門的な基盤として、公的統計の10の基本原則がある。**
- 2014年に国連総会で採択(A/RES/68/261)
- **原則1 – 関連性、公平性、平等なアクセス：**統計は公共の利益に資し、客観的で、すべてのユーザーが平等に利用可能でなければならない。
- **原則2 – 専門的基準と倫理：**方法や決定は科学的原則と専門家としての倫理に従わなければならず、不当な外部の影響を受けることなく、実施されなければならない。
- **原則6 – 機密保持：**統計作成の目的で収集された情報は厳重に秘匿され、統計目的以外に使用されてはならない。
- 急速に変化するデータエコシステムにおけるこれらの原則の実施に関する助言を提供するため、基本原則に関するアドバイザリーボードが2025年に設立された。

包摂性とユーザーエンゲージメント - すべての人のための統計・データ

- **データの包摂性：**異なる地域、セクター、人口グループを反映した、タイムリーで詳細かつ細分化された統計
- **ユーザーエンゲージメントにおける包摂性：**政策立案者、地方自治体、民間セクター、メディア、市民社会、学術界など、主要なユーザーコミュニティとの構造的かつ継続的な対話
- **アクセスと利用の包摂性：**統計を、ユーザーフレンドリーな形式において、明確なメタデータ、適切な言語、アクセスしやすいデジタルプラットフォームで提供
- ユーザーエンゲージメントとコミュニケーションは、NSOや他の公的統計の作成者にとって、任意の活動ではなく、**中核的なリーダーシップを発揮すべき役割**として認識されている。
- **UNSD、SIAP** 及びパートナーは、包摂性とユーザーエンゲージメントが日々の統計実務に組み込まれるよう、ユーザー中心の戦略、ツール及び研修の開発を各国が進められるように支援している。

より良いデータ・統計のためのイノベーションの取り込み



- **新たなデータソース**、例えば携帯電話の記録、地理空間データや衛星画像、ウェブデータやスキャナーデータ、センサーやIoTストリーム、行政記録、民間データなどは、従来のサーベイやセンサスを補完し、公的統計で測定できる範囲を拡大する。
- **新しい技術**は、タイムリーで詳細かつ先見的な統計へのユーザーのアクセスを向上させ、急速に変化する環境や、COVID-19パンデミックのような外的変動下での政策対応を支援する。
- **現代的な生産アーキテクチャ**は、再現可能な分析パイプラインやAI・機械学習支援の方法に基づいて構築されており、サーベイやセンサスを、統計分野横断的な新たなデータストリームと組み合わせることを可能とする。
- **UNSD**とそのパートナーは、公的統計のためのビッグデータ・データサイエンスに関する国連専門家委員会(**UN-CEBD**)、GISTビッグデータ・データサイエンスタスクチーム、及びビッグデータ・データサイエンス地域ハブを通じて、各国が革新的な手法を試行・拡大・共有できるよう支援している。

目的に適した品質

- **政策立案者、企業、市民にとって、質の高い統計とは「目的に適したもの」であり、実際の意思決定に信頼をもって活用できる数字を意味する**
- **品質とは正確性だけを意味しない。**ユーザーは、統計が関連性があり、タイムリーで、一貫性があり、比較可能で、見つけやすく、理解しやすいかどうかを重視している。
- **国連国家品質保証枠組み(UN-NQAF)**は、 国家統計機関が、統計システム全体にわたって、品質管理のための明確な役割、基準、手順を確立することを支援している。これは、組織やプロセスから個々のプロダクトに至るまでを対象としている。
- **UN-NQAF**は、公的統計の開発、作成、普及における**新しいデータソース**の利用も、対象となるよう拡張された。
- **UNSD**は、ガイダンス、自己評価、ロードマップ、ピア・ラーニングを通じて、世界中の国家統計機関がUN-NQAFを実践することを支援している。

データガバナンス - データエコシステムを機能させる

- **データガバナンスは、データの収集、共有、保護、利用の「ルール」を定めるものである**
- 政府、民間セクター、市民社会、その他のデータ提供者を含む**広範なデータエコシステム全体**で、保護、相互運用性及びセキュリティのフレームワークにより、安全なデータフローが可能となる。
- **良いガバナンス**は、データを管理された共有資産に変え、プライバシーと倫理的な観点からの利用を保護しながら、新たなソースでのイノベーションを可能にする。
- 明確な法的マンデートと調整の取り決めにより、**国家統計局**は政府省庁、民間及び公共のデータ保有者、市民社会、その他のデータコミュニティと連携し、国家データエコシステムにおける主要な管理者として位置づけられる可能性がある。
- **国連データガバナンス作業部会**は、各国が国内のデータエコシステムにおけるデータガバナンスの実施を支援するためのに、共通概念、データガバナンスのフレームワーク及び実践的なガイダンスを開発している。

2025年世界統計の日 - すべての人のための質の高い統計・データ

- 基本原則のもとでの30年間の進展を祝うとともに、情報に基づく意思決定のための信頼できる基盤として公的統計を確立する
- 透明性と説明責任において引き続きリーダーシップを発揮し、公的統計がエビデンスに基づく政策決定と国民の信頼の中心であり続けることを確保する
- デジタルトランスフォーメーションの機会を活用し、グローバル及び国内のデータコミュニティとの協力を強化することで、イノベーションを促進し、倫理的な実践を確保し、新たなデータソースを効果的に統合する
- 社会の変化するニーズに対応できるように、公的統計を進展させ、持続可能な開発政策の推進に積極的に貢献するよう尽力する

世界統計の日フォーラム2025

Gabriel Gamez | Chief of Section
Statistical Capacity Management | Data Innovation and Capacity Branch
United Nations Statistics Division
Department of Economic and Social Affairs | United Nations
2 UN Plaza | Office DC2-1920 | New York, NY 10017, USA
Email: gamezg@un.org | Tel: +1-917-367-5443

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD